

# 2021年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

## 岩上ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>「証券投資の学びを通して、経済を見る力・感じる力を磨こう！」</p> <p>株式や債券といった証券への投資論を学びます。株式相場は、国の経済活動の強弱を反映します。個別企業の株価は、事業活動の良し悪しを反映します。債券は、経済活動の体温ともいえる金利を表します。株式や債券について学ぶことは、企業や国の経済活動そのものを学ぶことに他なりません。</p> <p>卒業後に皆さんがどんな職業に就こうとも、経済への理解は必須です。投資の学びを通して、経済を見る力、経済活動の息吹を感じる力を養います。 一攫千金を夢見るゼミではありませんので、勘違いしないように！</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習Ⅰでは、証券投資論の基礎を学びます。株式、債券、投資信託といった代表的な投資商品や企業分析について学びながら、リスクを抑えつつ安定的な収益を獲得する投資手法について考えます。投資シュミレーションゲームなども活用して、実践的なゼミ活動とします。</p> <p>演習Ⅱでは、少人数のグループごとに、取り組む課題テーマを決めて研究をスタートします。指導教員は、銀行・証券会社で30年のキャリアを持つ金融の専門家です。証券投資に限らず、金融に関するものであればどのようなテーマでも構いません。ゼミでは、グループごとに研究の進捗状況を報告してもらい、全員で議論をしながら研究を深めていきます。</p> <p>卒業研究は、演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、各自設定したテーマについて研究を進めます。Ⅱの研究テーマの延長でも、新たに興味をもったテーマでも構いません。</p> <p>また、ゼミ生が希望すれば、毎年7月～翌年1月に実施される「日経STOCKリーグ」(日本経済新聞社が主催する大学チーム対抗の金融経済・投資学習コンテスト)、「日経STOCKリーグ」で検索)に参加します。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>企業の人事部で採用チームリーダーを務めていた経験をもとに、就職活動のあらゆる場面で相談に乗り、親身で丁寧な指導をします。進学希望者についても、編入試験や面接の対策を最大限サポートします。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>テーマは、金融にかかわる内容であれば、自由に選択して構いません。 分量は、A4(40字×40行)で7ページ以上(図表は除く)を目安とします。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>以下に該当する学生の応募を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①金融や投資に関心を持ち、主体的に学びたいという意欲をもつ人。</li> <li>②3～5人程度の小グループでの研究に、積極的に取り組むことができる人。</li> <li>③大学生としての基本的なマナーを守れる人。</li> </ul>
<p>その他</p>	<p>前期に「金融論」の講義を履修している必要はありません。履修していないことがゼミでの学習・研究、成績評価に不利になることはありません。</p> <p>質問がある場合は、研究室(3号館4F-411)まで聞きに来てください。訪問希望の人は、あらかじめメールで予約して貰うほうが確実です。</p> <p>担当教員メール: iwakami@k-kentan.ac.jp 担当教員のプロフィールは大学ホームページを参照してください。</p>

## 岡田ゼミ

基本テーマ	日本全体の人口減少と大都市圏への人口移動が加速し、特に地方圏は地域存続の危機に直面しております。これからは、各自が地域の問題を見つけ、改善策を探り、住みたいまちづくりを意識しながら、仕事をするのが重要であると考えます。このゼミでは「地域活性化」や「地域づくり」を基本テーマとします。具体的には、地域で起こっている現象を、都市、農村、商業、農業、工業、観光、交通、文化、社会、景観、行政、環境などの様々な視点から、または複合的にアプローチすることにより、その実態を捉えて改善策を考えていきます。
ゼミ運営方法	演習Ⅰ：基本テーマに沿った関心のある文献を各自で見つけて発表し、皆で議論します。 演習Ⅱ：各自のオリジナルな発想で卒業研究のテーマを決めて、地域調査を進めます。 卒業研究：地域調査結果をもとに、余裕を持って卒業論文を作成します 地域活動：ファーマーズマーケットやマルシェの運営、地元商店街とのフリーペーパー作成、鹿児島市の若者まちづくり会議などに携わってきました。主体的な経験として就職活動等の面接でも語れるようになります。ゼミ時間外の地域活動については、希望者が地域盛り上げ隊(県短サークル)として自主的に行っています。(ゼミ時間外の地域活動への参加は自由です。成績に関係しません。)
就職指導の方針	どのような職種を希望する場合でも、可能な範囲で相談にのります。
卒論の要件	基本テーマに沿っていれば何でも構いません。
学生への要望	ルールを守ること。 協調性をもつこと。 ゼミの時間は前向きに思考すること。 基本テーマに特化したゼミを行うので、このことに関心のある学生を望みます。
その他	興味や質問があれば、研究室(3号館2階)を訪ねるか、メール(okada@k-kentan.ac.jp)をしてください。 岡田ゼミを希望する場合には、なるべく事前に相談に来てください。

## 岡村(俊)ゼミ

基本テーマ	<p>ゼミのテーマは“情報化を中心としたシステムと人間の関わり合い”です。コンピュータやネットワークを中心としたモノ、社会、システムが人間とどのように関わっているのか明らかにし、快適かつ効率的な(職業)生活をしていこうということです。簡単に言うと、“ICT(情報通信技術)を活用することで、ラクして、いい仕事しよう”となります。</p> <p>ヒット商品や心理学に関して学ぶこともあります。あくまでも(働くことを含めた)人間の生活からの視点で考えていきます。</p> <p>岡村(俊)はICTの専門家でもあります。コンピュータをバリバリやりたいならこのゼミは1つの選択肢となります。一方、「コンピュータは苦手、でもうまくなりたい」という学生が選択してもかまいません。どうして苦手なのか、コンピュータのどこが悪いのかを知ることができ、苦手意識を克服することができるかもしれません。ICTに興味がない人はこのゼミには向いていません。</p>
ゼミ運営方法	<p>基本的に“演習1”と“演習2”は“卒業研究”に向けての準備だと考えます。卒業研究は“勉強”ではなく“研究”なので、世の中に役に立つ新しい事実を自ら発見することが望まれます。また、学習と実益を兼ねて、学内あちこちのICT環境改善(パソコンや周辺機器の設定とか)など実践的な活動をやります。</p> <p>ゼミの運営は基本的に学生主体が望ましいところです。学生の運営を教員がサポートする、というのが理想です。新型コロナの状況下では難しいかもしれませんが、工場見学など授業時間外での活動も、できる限り学生の希望に対応していきたいと考えてます。</p>
就職指導の方針	<p>就職先、進路、書類の書き方など学生の希望に応じて、できる限りのアドバイスはします。こちらからなにか強制することはありませんが、たまに活動状況に関して確認することはあります。指導や助言はしますが、進路選択・就職活動はあくまでも学生自らの責任において行うものであると考えています。</p>
卒論の要件	<p>ゼミのテーマから大きく外れなければ、内容、字数ともに自由です。動画などのデジタルデータでもかまいません。各自のテーマは演習を進める中で自分で決めていくことになります。内容によっては複数名での執筆も可とします。内容に応じて、実地調査やアンケート調査、実験なども含むこともあります。</p>
学生への要望	<p>自分の考えを持つと同時に、その考えを表現する(相手に伝える)ことを望みます。基本的にゼミ生を自立した“おとな”として扱います。“おとな”になれない、“おとな”になろうとしない学生は、最低限の学習しかできないと思ってください。</p>
その他	<p>何か質問があれば、okamura@biz-kpc.netにメールをするか、研究室(2号館1階)を訪ねてください。</p>

## 倉重ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>このゼミでの基本テーマは、「コンピュータを用いた意思決定」です。ここでのコンピュータを用いるとは、プログラミングを行ったり、エクセルをちょっと高度に利用してみたり、特殊なソフトを使うことです。さらにサブテーマとして、「観光」をあげています。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習ⅠとⅡでは、エクセルを利用したプログラミングやデータ解析、シミュレーションなどを学んでいきます。ある程度基礎力が養われたら、「エクセルを使った鹿児島すごろく」の作成や「観光地の評価」などの課題に取り組んでもらう予定です。コンピュータを用いる課題以外にも人前で話すことや思考力を養う課題なども考えています。また、最初のうちは教員主体で行いますが、慣れてくれば学生主体での運営を考えています。</li> <li>・卒業研究では、基本的に自分が興味を持てるテーマで卒論を書いてもらいます。</li> <li>・課外活動は、学生さんからの要望があれば実施します。</li> </ul>
<p>就職指導の方針</p>	<p>私に”できる範囲内”でのお手伝いはさせていただきます。特に間接的な就活支援になりますが、SPIの非言語処理問題やPC検定への質問・相談は歓迎します。また、面接練習用にビデオカメラなども準備しています。これらは希望する学生さんのみを対象にするもので、こちらから無理強いすることはありません。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>テーマなどは自由で、複数名で取り組むことも可能とします。分量に関しては、その内容によります。</p>
<p>学生への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少なくとも現段階でプログラミングなどコンピュータを扱うことに興味があること(経験はまったく問いません)。</li> <li>・チームでの活動を基本とするので、最低限度の協調性は必要かと思えます。</li> <li>・後期開講予定の統計学は受講してください。</li> </ul>
<p>その他</p>	<p>このゼミは、以下のような人が向いている気がします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、情報関連分野に就職を考えている人はもちろんですが、ワンランク上のエクセル使いを目指す人</li> <li>・数字を扱うパズルが好きな人(得意である必要はありません)</li> <li>・フェルミ推定が楽しそうと思える人</li> </ul> <p>(フェルミ推定については、ネットで調べてみてください。過去の課題例: 県短で1年間に消費されたトイレットペーパーのロール数、県短内で1年間に発生した消しカスの重量、県短内での1年間のタイピング数、県短の門を1年間に通過した人数などの推定)</p> <p>現在、国内留学中のため大学にはいませんが、何か質問があれば気軽にメール(kuraken@以下略)で問い合わせてください。</p>

## 瀬口ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>瀬口ゼミのテーマは、「企業と市場」、「企業間競争」、「企業と社会」などについて考察することです。具体的には、なぜ売れる商品と売れない商品があるのか、企業の間でどのような競争が展開されているのか、企業は社会に対してどのような影響を与えるのか、などについて考えていきます。</p> <p>詳細についてはゼミ生の要望を聞いてから決定しますが、マーケティング論、ブランド論、多国籍企業論、経営戦略論、企業の社会的責任論(CSR論)、文化産業論、消費社会論、のいずれかが中心になります。このような分野に興味がある学生さんにおすすめします。</p> <p>過去の卒業生の多くは、卒論のテーマとして、「ディズニー・リゾート」、「ユニクロ」、「無印良品」、「ルイ・ヴィトン」、「アニメ産業」、「健康食品産業」など、自分が興味を持っている具体的な企業や産業を取り上げました。その他にも、広告の効果やドラッカー学説の検討など、理論的な研究もありました。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「演習1」では、ゼミ生の希望を聞きながら、以下の2つの方法から選択する予定です。             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)ゼミで共通の本を決め、輪読を行う。</li> <li>(2)各自で興味のある本を1冊選択し、そのなかの1～2章分を発表する。</li> </ul>             いずれの場合も、以下の手順で進めていきます。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①文献を決定し、担当者を割り振る。</li> <li>②担当者は、自分の担当箇所をレジュメにまとめ、発表当日に他のゼミ生に配布する。</li> <li>③報告する際は、レジュメに基づきながら担当した箇所の内容を説明し、自分が考えた論点を提示する。</li> <li>④他のゼミ生は、報告者への質疑や提示された論点について意見を述べる。</li> </ul> </li> <li>・「演習2」では、演習1での学習状況を見極めながら、応用文献の発表または卒業研究に向けたテーマ設定などを行う予定です。</li> <li>・「卒業研究」では、卒業論文の執筆がメインになります。各自のテーマに基づき、研究内容や進捗状況などを随時報告してもらいます。</li> <li>・新型コロナウイルスの状況次第ですが、学内開放(学祭)への参加、工場見学などのゼミ旅行、食事会等の活動を行いたいと考えていますので、このような活動に積極的に取り組みたい学生さんの応募を待っています。</li> </ul> <p>ただし、こちらから無理に計画することはありません。皆さんから自分たちの希望を私に伝えて欲しいと思います。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差を付けることはありません</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>希望者に対して、企業研究、履歴書の書き方、面接対策などを出来る範囲でお手伝いします。ゼミ以外でも、希望があれば時間を取って、個別に相談に乗るつもりです。よく相談に来てくれる学生には、毎週のように指導することがあります。</p> <p>また、就職活動に必要なとされる能力(論理的に考える、自分の考えを持つ、自分の考えを相手に分かるように伝える、相手の話を聞く、質問の意図を読み取る、など)は、ゼミ活動のなかでも養成できると考えます。したがって、普段のゼミ活動においても、就職活動直前になって困らないように、前述した能力を身に付けられるよう指導していきます。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>卒論のテーマは、私が指導可能な分野であれば、何でも構いません。</p> <p>テーマ設定や書き方などについては、ゼミのなかで具体的に指導していきます。文字数は特に設けていません。心配しなくても、書くべきことを書いていけば、十分な文字数になります。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>現時点での知識や能力などは一切問いません。同様に、専攻や私の授業の受講経験も関係ありません。また、一人ひとり忙しさや力を入れていることが異なるでしょうから、ゼミ中心の生活を望むことはしません。</p> <p>しかしながら、ゼミに参加し、ともに学ぶにあたって、以下の点を守ってほしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な理由が無い限り、欠席をしないこと。欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席をしないこと。</li> <li>・ゼミのテーマや本について決める際に自分の希望が叶わなくても、決まった以上は一生懸命取り組むこと。</li> <li>・自分が担当すること(担当する章の報告など)には責任を持つこと。</li> <li>・自分が担当する章でなくても、きちんと文献を読み質問を考えてくること。</li> <li>・「黙っていても何かしてくれる」のではなく、「自分たちでゼミをつくっていく」気持ちを持つこと。</li> </ul>
<p>その他</p>	<p>ゼミについて質問があれば、seguchi@k-kentan.ac.jpまで遠慮なくメールしてください。</p> <p>私と直接話して相談したい場合も、上記のメールアドレスにメールを送ってください。お互いの時間を調整して相談に乗りたいと思います。</p>

## 宗田ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>【基本テーマ】 会計学の視点による鹿児島県内中小企業の調査研究          【概要】鹿児島県内の中小企業の調査研究を行います。コロナ禍の影響次第ですが、実際に中小企業を訪問して、ビジネスモデルについて学び、経営を行なっていく上で、会計の果たす役割について検討して行きます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>演習Ⅰ、Ⅱ：中小企業に関連する基本書を通読したり、調査手法について学びます。          （同時に中小企業関連資格の勉強も行います。）          卒業研究：演習ⅠおよびⅡにおける学修をもとに卒業論文の作成を目指します。          ゼミ運営の基本方針は以下の通りです。          「勉強の方法を学ぶ」、「知識・技術の習得」、「交流と協調」、「よく遊び、よく学ぶ」</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>どのような進路であっても、可能な限り皆さんのリクエストに応えます。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>各自で設定した卒論テーマに従って、卒業論文を作成していただきます。          字数制限は特にありません。詳細なテーマ等は過去の学生論集を参照してください。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>現在の知識や技術ではなく、次のような学生の参加を望んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をしたり、時間を守ったりするなど、ルールやマナーを守ることができる学生。</li> <li>・勉強に限らず、自らの目標もしくは目的に向けて学生生活を送っている学生。</li> <li>・サークルや自治会活動、大学イベントなどに積極的にかかわれる学生。</li> <li>・ゼミに入った場合、会計関連科目(簿記論, 原価計算, 会計学総論, 財務会計論, 会計情報論, 管理会計論など)を履修していただくと幸いです(強制はしませんが希望します。)</li> </ul>
<p>その他</p>	<p>【担当者自己PR】          担当者のプロフィール等に関しては、宗田健一会計研究室のホームページ(<a href="http://sota.labo.ac">http://sota.labo.ac</a>)で確認してください。          連絡先アドレス:sota*k-kentan.ac.jp (*は@に換えること)          可能であれば、ゼミ配属後のミスマッチを防ぐために、事前に研究室を訪問したり、私と話したりすることをお勧めします。</p>

## 竹中ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>テーマは、「経営学を学び、これらからの働き方を考える」です。          経営学のゼミですので、企業やその活動内容についての理解を深めていきます。同時に、私たちにとって大事な問題である、企業との「働き方」についても考えていきます。「良い企業とはどのような企業なのか」「望ましい働き方とはどのようなものか」などのテーマについて、テキストでの内容を手がかりにして、ゼミで議論を行います。</p> <p>テキストは「みんなの経営学」(佐々木圭吾著)を候補として考えています。          ゼミのメンバーが決まれば、テーマやテキスト、進め方について改めて考える機会を設けるつもりです。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>大きな流れとしては、以下のようになります。</p> <p>演習1: テキストを中心として、経営学や企業を考える知識を得る          ↓          演習2: ①各自の卒論のテーマを設定し、執筆の準備をはじめる          ②引き続きテキストの内容を取り上げる          ↓          卒業研究: 卒業論文を仕上げる</p> <p>ゼミは、基本的には学生が中心になって活動するものです。          ゼミ生同士で考えていく時間を多くしていくつもりです。</p> <p>ゼミでは、各自のテーマについて問題意識を持って考えていくことが大切です。自分の意見を述べると共に、他の学生からの質問や感想にも耳を傾けることで、様々な問題の理解が深まっていくようなゼミ運営ができることを望んでいます。</p> <p>なお、ゼミ合宿等の大学外での活動の予定はありません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>就職は皆さんにとっての大きなテーマです。できるだけサポートをしていきたいと考えています。これまでは、履歴書作成や志望動機、自己PRなどどのように書けばよいかについて、アドバイスしてきました。また、具体的な求人情報は学生課にありますので、そこの連携も行っています。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>卒論の字数については、目安としてA4用紙10枚程度(12000字～15000字程度)が必要です。テーマについては、必ずしもゼミで取り上げたテーマでなくても構いません。自分で関心があるテーマを見つけ、それについてじっくりまとめることができれば大丈夫です。1年生の演習1の終盤からそれぞれと意見交換しながらテーマや内容について考えていく予定です。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>ゼミは少人数で運営されるので、一人一人の発言や学生自身の考え方・問題意識が大切です。そのためには、それぞれの人が何を考えているのか、言葉や文字にして他の人に伝えていくことが必要になります。また、伝える方法にまだ慣れていなければ、ゼミなどの機会を活用して練習していくことで、経験値が上がっていきます。          このようなことを理解してくれる学生を望みます。</p>
<p>その他</p>	<p>ゼミについて何か質問がある場合は、takenaka@k-kentan.ac.jpまでメールで連絡するか、授業後や研究室などへ直接質問に来てくれれば対応します。</p>

## 近間ゼミ

基本テーマ	<p>ゼミのテーマは、「メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用」です。</p> <p>日本と欧米の働き方の違いについて説明するとき、よくこの言葉が用いられています。メンバーシップ型雇用とは、まず「人」を先に決めて、「仕事」の方はできる限り緩やかに、それを担当する「人」の持ち味をできる限り発揮できるように決めていくというやり方です。これに対して、ジョブ型雇用とは、「仕事」の方を厳格に決めておいて、それにもっともうまく合致する「人」を選定するというやり方です。日本社会は長らくメンバーシップ型雇用であると言われてきましたが、近年では欧米のジョブ型雇用に変えていくべきだという議論も生じてきています。ゼミでは両者の比較を軸として、日本の働き方の特徴、海外の働き方との違いを考えていきたいと思いをします。また、上記のテーマでなくても、働き方について興味がある方の参加を歓迎します。</p>
ゼミ運営方法	<p>大まかには以下のような流れで進めていきたいと思いをします。</p> <p>演習Ⅰ：ゼミのテーマに関わるテキストを1冊選択し、輪読を行います。</p> <p>演習Ⅱ：卒論の執筆に向けて、各自が関心を持っているテーマに関係する論文を取り上げ、その内容を報告してもらいます。</p> <p>卒業研究：卒論の目次案、概要を報告してもらい、実際に卒論を作成してもらいます。各々の進捗状況に合わせて、適宜アドバイスを行います。</p> <p>ゼミ運営の具体的な方法については、ゼミ生と相談しながら決めていきたいと思いをします。あくまで学生が主体となってゼミが運営されることが望ましいので、参加しやすいやり方についても何かあれば提案してください。</p> <p>また、ゼミ生の希望があればゼミ旅行、ゼミ合宿などを企画したいと思いをします(ただし、新型コロナの状況次第)。</p>
就職指導の方針	<p>希望者には、履歴書の作成や面接練習などを可能な範囲でサポートしていきたいと思いをします。就職活動はゼミのテーマとも密接に関わることでありますので、心配事なども遠慮せず相談してください。</p>
卒論の要件	<p>文字数は目安として12,000字～15,000字程度とします。</p> <p>社会問題を扱うテーマであれば、ゼミで扱うテーマでなくても構いません。テーマについては、ゼミのなかで相談しながら決めていきたいと思いをします。</p>
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーを守ってお互いが気持ちよくゼミに参加できるように心掛けていきましょう。</li> <li>・欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席しないこと。</li> <li>・ゼミでは活発な議論ができることを望みます。ただし、どんな発言に対しても相手を誹謗・中傷するようなことはしないことを守ってください。</li> </ul>
その他	<p>ゼミについて興味がある方は、研究室(3号館4階)を訪ねてください。その際、事前にメール(chikama@k-kentan.ac.jp)でアポを取っていただくと確実です。もちろん、メールでの質問もかまいません。</p>

## 野村ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>SDGsか脱成長 Kommunismusか～人間が暮らせる地球を未来に残すために～          国連は2030年を期限とする開発目標SDGsを2015年に定めていましたが、後ろ向きなトランプ政権、それに歩調を合わせる日本の政権の下では進捗が遅れていました。しかしトランプからバイデンへの政権交代により日米も本格的に取り組むことになり、SDGsの一つである気候変動対策については2050年カーボンニュートラルを目指すことになりました。          気候変動対策に関しては世界中の政府と企業が本格的な投資を始めています。脱炭素に財政資金を集中的に投資するグリーンニューディール、SDGsへの取り組みを基準に融資先を選別する金融機関のスクリーニング、多くの企業がホームページのトップに掲げて取り組むSDGs活動です。          しかし、グリーンニューディールもスクリーニングもSDGs活動も、それが経済を成長させ生産を拡大させる限り～資本主義を前提する限り～2050年カーボンニュートラルは実現できず脱成長 Kommunismusへの転換が必要という考え方もあります。          野村ゼミでは、気候変動・SDGs・脱成長 Kommunismusをキーワードに「人間が暮らせる地球を未来に残すためにどうすれば良いか」考えていきます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>脱コロナグローバリズム～「私たちが残したい地球とはどんなものなのか」          野村ゼミはコロナ規制が始まる前まで、海外の現地に実際に行ってみて学ぶことを基本に活動してきました。残念ながら、この1年半はそれができませんでしたが、日本も含めて全世界的なワクチン接種の加速により、欧米では旅行者の受け入れが再開され始めています。日本が今後どうなるかについて現時点では不明ですが、秋以降は欧米並みに規制解除されるのではと期待しています。          「私たちが残した地球とはどんなものなのか」実際にヨーロッパ・アジア等に出かけて考えるため、状況が好転してきたら旅行の準備を始めたいと思っています。          ただ、状況が好転しないこともあり得ないことではないので、その場合は、キーワード～気候変動・SDGs・脱成長 Kommunismus～を映像・本を使って学びます。具体的にどんな運営が行われるかは、前期の基礎ゼミが野村ゼミだった人に聞いてもらうのが一番ですが、研究室に来てもらえばいろいろお話しします。          なお、海外に行く方向になった場合でも、参加は義務ではありません。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>私は県短に30年以上勤めているため、ゼミの卒業生が350人ほどおり、ほとんどの地元企業に卒業生がいます。これらの卒業生に研究室に来てもらい相談に乗ってもらいながら皆さんの就活を進めます。海外留学、海外就職した卒業生、編入した卒業生についても同様です。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>自分で見て、聞いたことをベースに、統計、文献を引用してまとめてもらいます。対象、テーマは皆さんに選んでもらいます。気候変動・SDGs・脱成長 Kommunismusと無関係でもOKです。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>コロナが明ければ、海外は意外に近く、安く、楽しいです。東南アジア1週間で6万円、ヨーロッパ1か国1週間で10万円くらい(航空券往復+ホテルの合計)。コロナが明けたら、海外も楽しんで見ようかなという気持ちを持ってもらえたらと思います。</p>
<p>その他</p>	<p>野村ゼミに応募を考えている人は、応募する前に2号館3階の野村研究室に来てください。授業時間以外は毎日午前8時半から18時頃まで研究室にいますのでアポは不要ですが、事前に連絡しておいてもらうと確実です。          携帯090-8298-0909、メールspjdc453@gmail.com</p>

## 疋田ゼミ

<p>基本テーマ</p>	<p>【基本テーマ】半径5メートルからはじめる多文化共生</p> <p>外国人労働者の新たな受け入れ制度「特定技能」が開始され、専門学校や大学には多くの留学生が入学し、今後は更に外国人の増加が見込まれています。こうした日本政府の外国人受け入れ政策を背景に、鹿児島県も外国人が急激に増加し、県内には、外国人の増加と定住化によって、多文化共生社会を実現し、人手不足の緩和や産業の活性化を目指すことを都市計画の中に位置付けている自治体もあります。つまり、使い捨て可能な人材として外国人を捉えるのではなく、私たちと同じ一人の人間として社会に迎える準備をするということです。</p> <p>言葉だけでなく、生活習慣や宗教観、経済状況や依存できる家族・友人の有無や、価値観の違いがあっても、人権が保障される社会。疋田ゼミでは、こうした多文化共生社会を目指す自治体の挑戦や取り組みを調査することを通して、多文化共生社会の実現のために、半径5メートルから始められることを考えます。</p>
<p>ゼミ運営方法</p>	<p>まず「かごしまの外国人材受入活躍推進戦略」から鹿児島県内の外国人受け入れ状況を知り、それに関連するテキストを輪読し、基本的な知識を身に着けながら、積極的に外国人受け入れを推進している自治体(南さつまや大隅を計画)に調査に出かける。</p> <p>&lt;テキストの候補&gt;</p> <p>徳田・二階堂・魁生編著『地方発 外国人住民との地域づくり』晃洋書房 別冊環『開かれた移民社会へ』藤原書店 移民・ディアスポラ研究『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』明石書店 川村千鶴子編著『3. 11後の多文化家族』明石書店 西日本新聞社編『新・移民時代』明石書店</p> <p>* 学外活動や聞き取りなどでは二部『卒業研究』との合同ゼミを行う可能性あり。</p> <p>「演習Ⅱ(後半)」「卒業研究」 それぞれ卒業論文のテーマの方向性を決め、文献やインタビューなども含めた調査を行う。論文作成については個別に指導を行う</p> <p>* 以上の演習の流れは疋田が設定しますが、リクレーションなどゼミ生同士で楽しむための工夫は学生に主導してもらいます。</p>
<p>就職指導の方針</p>	<p>編入試験も含め、自己PRや志望動機、面接へのアドバイス、履歴書添削などのサポートは最大限行いますが、ゼミの運営に主体的に関わっていくことが、必要な素養を身に着ける最大の就活対策になると思っています。</p>
<p>卒論の要件</p>	<p>基本的にテーマは自由。演習2の終わりまでにテーマを見つけてください。コピペでなく、自分で調べたこと、自分で考えたことを、自分の言葉でわかりやすく説明すると、写真、図表を含めれば、A4で20枚程度の卒論は結構書けると思います。</p>
<p>学生への要望</p>	<p>ジェンダー論などに興味がある人、自分とは違う考え方に会いたいと思っている人、自分の頭で納得いくまで考え、自分の言葉で表現したいという人大歓迎です。ゼミの運営には協力してください。欠席する場合や事情があって自分の役割を果たせなくなった時など、教員や他のメンバーに配慮して早めに連絡をするといった、集団の一員としての最低限のマナーは守ってほしいです。</p> <p>それと、ゼミの時はゼミのテーマに真剣に取り組む、遊ぶ時は思いっきり楽しむというメリハリをつけられる人。あるいはそうありたいと思っている人を希望します。</p>
<p>その他</p>	<p>疋田ゼミについてもう少し知りたいと思う人は研究室(3号館4階)を訪ねてください。ただし、メールで(hikita@k-kentan.ac.jp)アポをとってから。またメールでの質問も受け付けます。</p>

## 福田ゼミ

基本テーマ	<p>国際社会に起きている様々な事象を理解できるようになることを目標にしたいと思います。また、そうした国際的な出来事が、鹿児島に住む私達の生活にどのような影響を及ぼすのかについても検討します。グローバルな視点をもって、ローカルで活動できるようになることを目指します。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習1では、新聞の社説の読み比べをして、社会の様々な問題に対してどのような意見があるのかを見ていきたいと思います。そしてその問題について議論したり、レポートを作成してもらいます。演習2では、国際関係論に関する基本的な文献の輪読をして、順番に報告してもらいます。同時に、順番を決めて毎週新聞記事についての報告をしてもらいます。演習2の途中から各自の興味のあるテーマについてまとめてもらいます。</p> <p>卒業研究では、各自の卒論のテーマについて報告してもらう予定です。</p> <p>ゼミの運営に関しては、参加者と相談しながら決めて行きたいと思っています。</p> <p>課外活動(参加は任意で成績には関係ありません) 希望があれば、県内外を訪問する課外活動を行いたいと思います。これまでに沖永良部や奄美大島、加計呂麻島などの離島を訪問したり、宮崎や鹿児島のアボカド栽培などについて見学したりしました。</p>
就職指導の方針	<p>小手先の面接技術などを習得するよりも、学生時代にしかできない体験、他の人と違った経験をすることを勧めます。</p>
卒論の要件	<p>「基本テーマ」に関するテーマについての卒業論文を執筆してもらいます。分量は、1万2千～1万5千字程度。</p>
学生への要望	<p>自分で考えて、自分で行動していこうというタイプの積極的な方を歓迎します。遅刻や欠席などをしないなど、あたりまえのことをあたりまえに行える学生を希望します。</p>
その他	<p>何か質問があれば、遠慮なくメールでfukuda@k-kentan.ac.jpまで問い合わせてください。直接研究室に来てもらっても構いませんが、事前にメールで連絡をもらえると確実です。</p>

## 船津ゼミ

<p><b>基本テーマ</b></p>	<p>一般企業、公務員等の就職活動や進学に有意義であるだけでなく、卒業後、社会人として様々な活動をする上での地力となるコミュニケーション能力、議論する力、マクロ経済学を主とした経済学に関する体系的知識、経済・社会に対する洞察力、プレゼン能力の習得・向上を目指します。</p>
<p><b>ゼミ運営方法</b></p>	<p>ゼミの具体的な運営方法は初回にゼミ生全員で話し合っ決めてたいと思います。そして、1年半単位ではなく、半期ごとに成果が実感できるゼミにしたいと思います。現時点で私からは、毎回のゼミの最初の15分程度でグーグルの研修プログラムを参考にしたコミュニケーション能力向上のためのエクササイズを行うこと(面接対策にも有用と考えます)、その後の1時間強は、主として伊藤元重『マクロ経済学 第2版』日本評論社をテキストにマクロ経済学に関するしっかりとした学力をつけつつ、学んだ内容と関連したニュース等について議論すること、不定期的にディベートか新聞や海外通信社の記事等を元にした議論を行うことを提案する予定です。</p>
<p><b>就職指導の方針</b></p>	<p>ゼミ生の要望に沿って、ゼミ生を手伝うのが基本です。具体的には、履歴書を書く時に相談に乗ったり、添削したり、面接の練習相手をしてアドバイスしたり、進学志望の学生の場合には、勉強方法についてアドバイスしたり、勉強会の形で分からないこと等の質問に答えたりといったことをしてきました。</p>
<p><b>卒論の要件</b></p>	<p>分量としては、400字×20枚以上が一応の目安です。テーマは、社会に関することであれば基本的に自由です。過去の卒論のテーマには、鹿児島県財政、鹿児島県内の市町村合併(薩摩川内市、南九州市等)、地域経済の活性化(出水市の企業誘致、「さんふらわあ」の影響、天文館の活性化等)、雇用・労働(アルバイト雇用、派遣労働、高齢者雇用、外国人労働者、女性の就業率、奄美市の雇用)、観光(鹿児島県と熊本県や福岡県との比較、霧島等のジオパークの比較等)、地域防災計画(鹿児島市と宮崎市の比較)、テレビCMと企業の売上の関係性、企業の経営分析(路線バス、ブランド戦略、コンビニ間の比較、ユニクロの分析、楽天とアマゾンの比較、東宝と東映の比較)、スポーツ(日本のプロ野球球団、野球の独立リーグ、日本女子サッカーの分析)、NPOと行政の協働、ロンドンオリンピックから見る東京オリンピック、太陽光発電の現状と課題等がありました。</p> <p>ゼミ全体やゼミの中での数人のグループで共通のテーマに取り組むことも考えられます(過去には2人で協力してアンケートを取って保育士・幼稚園教諭の人材確保と処遇改善に関する連名の卒論を書いた先輩もいます)。</p>
<p><b>学生への要望</b></p>	<p>現在の知識の量、勉強や読書の得意、不得意といったことは一切問いません。また、ゼミの議論では積極的に発言してもらいたと思いますが、良いこと、賢そうなこと、感心してもらえるようなことを言おうとする必要は全くありません。しゃべることが得意でなくても構いませんから、自分が感じたこと、考えたことを素直に、出来るだけ分かりやすく伝えようとしてもらえれば十分ですし、そうしやすいようにゼミを運営するつもりです。</p>
<p><b>その他</b></p>	<p>僕に実際に会ったり、話してゼミ選択の判断材料にしたいという方は遠慮なくお願いします。他の仕事等と重なる可能性もありますので、前日の午後9時までにメールでアポイントメントをとってもらうのが確実です。数人一緒でも大丈夫ですので、気楽に声をかけてください。来室時には軽くノックして、「〇〇(自分の名前)です」と呼びかけてもらえると助かります。</p> <p>なお、ゼミの希望者が定員を超えた場合は、2年のゼミ生に、なぜ、何を基準に評価するかを話し合ってもらった上で、名前を伏せた志望書を読んで評価してもらい、その評価を参考に判断する予定です。</p>

## 山口ゼミ

<p><b>基本テーマ</b></p>	<p>〈社会問題を経済の側面から分析し、解決策を探る。〉</p> <p>少子化、高齢化、財政問題、地方衰退、格差と貧困、働きすぎ、新技術の登場、気候変動、その他、取り上げるテーマはゼミ生個々人が自由に選びます(ただし経済的視点から分析できるものが望ましい)。 このゼミでは、問題意識の見つけ方、資料の集め方、論理的な考え方、解決策としての自分自身の主張のつくり方などを、本や研究実践を通じて指導していきます。</p>
<p><b>ゼミ運営方法</b></p>	<p>演習1では、まず文献やビデオ鑑賞を通じて、「社会」とは何かについて考える機会を作ります。そして、研究の方法論(研究とは何か、どのように進めるか)といった基礎について学んでいきます(春休み期間も含む)。 演習2では、各自のテーマとしたい問題に基づく研究報告と、全体にかかわる経済学等の文献の輪読を並行して進めます。 卒業研究では、各自がテーマを決めて研究を進め、研究報告を中心としたゼミ運営を行いません。</p> <p>1年生の春休みや2年生の夏休みといった長期休暇も有効利用してしっかり学ぶことができる環境をつくります。 長期休暇中は各自の研究・学習に必要な本を自習してもらいます。また、ゼミ生の希望があれば国内外への調査旅行や合宿なども実施します(ただし新型コロナウイルスなどの状況次第)。 その他、希望があれば企業見学なども随時企画します。ゼミ懇親会などの親睦企画も随時実施します(同上)。</p>
<p><b>就職指導の方針</b></p>	<p>就職・進学いずれにしても、基本は自分自身で進めてもらいます。 その中でわからないことがあれば相談に乗ります。可能なかぎりが必要な支援も行いますので、相談は遠慮せずに行ってください。 支援の中身としてこれまでは志望動機の添削や自己分析の手伝いなどをしてきました。</p>
<p><b>卒論の要件</b></p>	<p>テーマは指導の中で相談して決めていきます。字数は12000字以上とします。</p>
<p><b>学生への要望</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無断欠席をしないようにしてください。</li> <li>・しっかり勉強に取り組むことを基本としていますが、とりわけ就活の取り組みを含め、個々人の状況には配慮します。負担が大きいなどの悩みがあれば遠慮なく相談してください。</li> <li>・ゼミの課外活動(企画、調査旅行、合宿など)については、実施される場合基本的に参加を推奨しますが、参加不参加の判断は任意であり成績には影響しません。また、金銭面その他不安がある場合は相談してください。</li> <li>・日常生活から、いろいろな物事に対する好奇心を持つことで、知の可能性はぐっと広がります。</li> <li>・個性を大切に。</li> <li>・自分の心身の健康を大切に。</li> </ul>
<p><b>その他</b></p>	<p>メールでの連絡は y-yamaguchi@k-kentan.ac.jp まで。 研究室は3号館2階です。 相談の予約については授業前後などに気軽に声をかけてもらって構いません。</p>

## 山本ゼミ

基本テーマ	<p>今年のゼミの研究テーマは、「観光行政」及び「地方分権改革」です。前半は「観光行政」について取り組みます。「観光客にとって、魅力的な都市は何か」という視点から、「都市ブランドの確立」、「ホスピタリティーの育成」等の観光振興のための施策について、実際の成功例を参考にして検討していきます。後半は、地方分権時代における「地方行政」のあり方について検証します。最初に地方自治体の役割に関する基本的事項を学んだ上で、フィールド・ワークを通じて「地方分権」はどうあるべきか、鹿児島未来像に関して考察していくことにします。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習Ⅰ：ゼミの基本テーマに関連する文献を使用し、観光行政、地域活性化ための基礎知識を身につけます。担当者に順番に報告してもらい、全員で議論をし、理解を深めます。 演習Ⅱ：各ゼミ生が卒業論文のテーマを決めて、調査を開始します。 卒業研究：卒業論文を作成します。 フィールドワークを実施します。実際に鹿児島の観光地に行き、観光客にアンケートをお願いしたり、インタビューをすることで、より魅力的な観光地になるためのヒントを探します。毎年、山本ゼミでは南大隅町の「雄川の滝」に行っています。20分ほど森の中を歩いて、素晴らしい感動を体験します。ゼミ旅行は、コロナが収束することが条件ですが、海外（費用は20万円程度）あるいは国内（費用は6万円程度）に行く予定で、世界や日本の歴史文化を学びます。これらの課外活動への参加は任意です。参加する意欲のある学生を歓迎します。課外活動は、ゼミの成績には一切影響しません。今年のゼミ運営の合言葉は、「見る、聞く、出会う」、「卒論作成のために徹底的に歩いて汗をかく」です！</p>
就職指導の方針	<p>山本ゼミのOGに就活体験記を話してもらうことを予定しています。</p>
卒論の要件	<p>卒論のテーマは自由ですが、1万5千字以上を条件とします。</p>
学生への要望	<p>忙しいゼミが好きで、行事やゼミ旅行に積極的に参加できる学生が山本ゼミに向いています。コロナの状況が改善した場合のみ、山本ゼミでは世界の料理を食べる食事会をします。*食事会への参加も任意です。ゼミの成績には一切影響しません。</p>
その他	<p>山本ゼミを希望する学生は、できるだけ研究室を訪問してください。研究室訪問の際には、事前にメール（yamamoto@k-kentan.ac.jp）を送るようにしてください。</p>